

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 83

2014年11月18日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、野口敏彦先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 第91回「産学官交流」講演会・交流会のご案内
2. 研究発表会とマッチングフェア合同開催のご案内
3. 「産学官マッチング会2014 in 三島」ご案内
4. 静岡大学・中日新聞連載講座「浜松発！未来の社会」ご案内
5. 「先端科学技術とクラシックピアノ音楽との出会い」ご案内
6. 浜松イノベーションキューブ (HI-Cube) 入居者募集のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. 第91回「産学官交流」講演会・交流会のご案内

日時 2014年11月28日(金) 講演会17:00~18:30 交流会18:45~19:45
会場 講演会 静岡商工会議所・清水事務所 (3階 研修室)
交流会 同上 (7階 交流サロン)
主催 静岡市清水産業・情報プラザ (静岡商工会議所)
共催 新産業開発振興機構
内容

○講演1

「スポーツ科学分野から身体を科学する」
静岡大学 教育学部 教授 杉山 康司 氏

○講演2

「富士山地下圏が涵養する莫大な水資源」
静岡大学 理学研究科 教授 加藤 憲二 氏

参加費 講演会：無料、交流・懇親会：1,000円 (軽食・飲物を用意いたします)
※当日参加も可能です。

詳細 http://www.siip.jp/index/seminar_event/242.html

申込/問合せ先 静岡商工会議所 新産業課 (担当：相磯、小塚)
TEL (代) 054-355-5400 FAX 054-352-7817
E-mail info2[at]nio-s.net

2. 研究発表会とマッチングフェア合同開催のご案内

【シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会】

静岡県食品技術研究会第236回例会
静岡大学食品・生物産業創出拠点第37回研究会

【マッチングフェア】

ポストドクター・キャリア開発事業
地域中小企業の人材確保・定着支援事業

日時 2014年12月4日(木) 研究発表会10:00~16:45
会場 ホテルプリヴェ静岡ステーション

3階 研究発表会

5階 ショートプレゼンテーション、ポスターセッション、交流会

(静岡市駿河区南町8-5 TEL 054-281-7300)

主催 静岡大学食品・生物産業創出拠点、静岡県食品技術研究会、
静岡県工業技術研究所、静岡県食品産業協議会、
静岡県博士キャリア開発支援センター、静岡県中小企業団体中央会
後援 静岡県立大学、東海大学海洋学部、公益財団法人静岡県産業振興財団、
静岡大学グリーン科学技術研究所、静岡大学創造科学技術大学院

内容

【講演】

テーマ＜グローバル化の中の食品・生物産業＞

10:10~11:10 基調講演「製薬企業におけるモノづくりの視点」

中外製薬株式会社研究本部創薬企画推進部課長 須藤正幸氏

11:10~11:30 研究発表① 「静岡県産農作物の未利用廃棄物中に含まれる有用物質」

静岡県立大学食品栄養科学部教授 授熊澤茂則氏

11:30~11:50 産学官連携事例紹介① 「『健康と天然の美味しさ』を求めて
(日研フード株式会社の取り組み)」

日研フード株式会社研究開発本部研究開発部長 勝又佳彦氏

11:50~13:30 ショートプレゼンテーション、昼休憩

13:30~14:30 ポスターセッション(会場5F)

14:30~14:50 研究発表② 「ペクチンはムチン・セクレタゴグか？」

静岡大学大学院農学研究科教授 森田達也氏

14:50~15:10 産学官連携事例紹介② 「中小企業の持つシーズとは？」

株式会社トライ・カンパニー代表取締役専務 山梨博郎氏

15:10~15:30 研究発表③ 「放線菌を用いた機能性堆肥“いちごいちえ”の開発」

静岡大学大学院農学研究科准教授 徳山真治氏

15:40~16:00 研究発表④ 「茶生葉酵素を利用した新規発酵茶飲料の開発」

静岡県工業技術研究所食品科 主任研究員 浅沼俊倫氏

16:00~16:20 産学官連携事例紹介③ 「腸内フローラ解析技術、活用事例および今後の展開」

株式会社テクノスルガ・ラボ技術顧問 長島浩二氏

16:20~16:40 研究発表⑤ 「グローバル化のなかでの食品研究」

東海大学海洋学部教授 荒木恵美子氏

【交流会】17:00~19:00 ※ポスター表彰式

参加費 セミナー 無料

交流会 会員:3,000円 会員外:5,000円

申込〆切 11月21日(金)

申込み・問合せ先 静岡大学食品・生物産業創出拠点事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL 054-238-4361 FAX 054-238-3018

E-mail oshirao[at]ipc.shizuoka.ac.jp

3. 「産学官マッチング会2014 in 三島」ご案内

日時 2014年12月12日(金) 13:00~16:30

会場 三島商工会議所 4階大会議室(静岡県三島市一番町2-29)

主催 静岡TTO、東海iNET、静岡県

内容

○産学官連携講演会

「大田区における医工連携の取り組み」

大田区産業振興協会 事業グループ経営革新担当 医工連携支援室医工連携担当

主任コーディネーター 木川 玲児 氏

○産学官連携講演会
「大学から見た医工連携の取り組み ～医学部との産学連携を成功させるには～」
埼玉医科大学 医学研究センター 知財戦略研究推進部門
副部門長 安河内 正文 氏

○シーズ発表
「映像・生理・物理計測による動作評価の新たな試み」
静岡県工業技術研究所 ユニバーサルデザイン科 上席研究員 易 強 氏

「医師・検査技師・看護師の負担軽減を目的とした医療ロボットの開発」
沼津工業高等専門学校 電子制御工学科 助教 青木 悠祐 氏

「過冷却による細胞保存技術」
静岡大学大学院 工学研究科化学バイオ工学専攻 教授 木村 元彦 氏

○ポスター・名刺交換・交流タイム、個別相談

参加費 無料
申込〆切 12月10日（水）
詳細 <http://stto.jp/images/article/2014mishima.pdf>
申込/問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1706 FAX 053-478-1711
E-mail match2014@cjrr.shizuoka.ac.jp
静岡技術移転合同会社
TEL 053-415-9109

4. 静岡大学・中日新聞連載講座「浜松発！未来の社会」ご案内

日時 第3回：2014年12月13日（土） 14:00～16:00
第4回：2015年1月10日（土） 14:00～16:00
第5回：2015年2月14日（土） 14:00～16:00

会場 静岡大学浜松キャンパス 工学部5号館システム工学科棟2階21教室
(浜松市中区城北3-5-1)

主催 国立大学法人静岡大学、中日新聞東海本社

テーマ

第3回 「花も進化する ～花は分子によって環境に適応している～」
創造科学技術大学院 工学研究科 教授 渡辺 修治

第4回 「新たな学び方 ～知識創造型の教育への転換～」
大学院情報学研究科 教授 大島 純

第5回 「光でがんを勝つ ～低侵襲がん光治療～」
大学院工学研究科 化学バイオ工学専攻 准教授 平川 和貴

参加費 無料

定員 100名

詳細 <http://Lc.shizuoka.ac.jp/>

問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係

TEL 054-238-4817 FAX 054-238-4295

E-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

申込先 ウェブサイト <http://Lc.shizuoka.ac.jp/>

FAX 054-238-4295

メール LLC@entry.Lc.shizuoka.ac.jp

葉書 〒422-8529

静岡市駿河区大谷836

5. 「先端科学技術とクラシックピアノ音楽との出会い」ご案内
～「第8回先端科学技術国際会議INMS2014」第二部～

昨年につき、「第8回先端科学技術国際会議INMS2014」の第二部として、世界的ピアニスト山岸ルツ子さんをお迎えして「先端科学技術とクラシックピアノ音楽との出会い」を行います。

山岸ルツ子さんは、村上春樹氏の新刊「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」に始終登場する巨匠ピアニスト、ラザール・ベルマンの最後の弟子で、8年間、直接指導を受けた国際的ピアニストです。

さらに、今回の趣旨に鑑み、楽器技術の飛躍的革新を遂げたロマン派の時代の作品を中心に演奏とトークで先端科学技術と音楽の精神の融合と調和を紡いで下さいます。

ピアノリサイタルのみ（参加費：1000円）のご参加も歓迎します。

ご家族、ご友人等、皆さまお誘い合わせの上、ご参加下さい。

日時 2014年12月1日（月）18：50～〔18：20開場〕

会場 アクトシティ浜松 中ホール

内容

12/1（月）

11:15～16:50 Part I Academic Symposium I

18：50～ Part II 山岸ルツ子ピアノリサイタル

「先端科学技術とクラシックピアノ音楽との出会い」

【演奏プログラム(予定)】

L. vanベートベン Ludwig van Beethoven (1770-1827) :

ピアノソナタ第14番嬰ハ短調「月光」

Sonate f r Klavier Nr. 14 cis-Moll

"Sonata quasi una fantasi (Mondsheinsonate)"Op. 27-2

F. リスト Franz Liszt (1811-1886) :

12の歌（シューベルト）から From 12 Lieder von Franz Schubert, S. 558

糸を紡ぐグレートヘン Gretchen am Spinnrade

アヴェ・マリア Ave Maria

魔王 Erlkonig

エステ荘の噴水（巡礼の年第3年IV）

Les jeux d'eaux a la Villa d'Este

(Ann es de pelerinage Troisi me ann e S. 163 R. 10 A283

ラ・カンパネラ（パガニーニ大練習曲より）La campanella

(From Grandes tudes de Paganini S. 141 R. 3b)

スペイン狂詩曲（スペインのフォリアとホタ・アラゴネーサ）

Rhapsodie espagnole (Folies d'Espagne et jota aragonesa) S. 254 R. 90

12/2（火）

9:00～12:05 Part III Academic Symposium II

参加費 Part I & III 無料、Part II 1000円

問合せ/申込先 静岡大学大学院工学研究科(電子工学研究所)

教授 中本正幸 TEL: 053-478-1306

秘書 小野和恵 E-mail ono.kazue[at]shizuoka.ac.jp

第二部参加登録用 E-mail nakamoto.inms2014[at]gmail.com

6. 浜松イノベーションキューブ (HI-Cube) 入居者募集のご案内

独立行政法人中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）は、新事業に

挑戦するベンチャー・中小企業向け支援施設「浜松イノベーションキューブ (HI-Cube)」の居室（実験室タイプ13室、研究室タイプ3室）の入居者を募集します。

【募集について】

受付期間 2014年11月18日（火）～11月27日（木）

対象 次に掲げる条件のいずれかに該当する方を対象とします。

- ①新たな事業展開を図る個人事業者、ベンチャー企業、
中小企業等
- ②自らの研究成果や技術を基に起業する（計画している）
研究者、個人
- ③大学が有するシーズ等を活用し、新技術の開発及び
事業化を目指す企業等

※上記①～③のいずれの場合も、暴力団、暴力団関係企業、
総会屋若しくはこれらに準ずる者又はその構成員（「反社会的勢力」）ではない方に限ります。

必要書類 申込みには下記の書類が必要となります。

（公告時にHPに様式を掲載します）

- ①施設賃借申込書
 - ②企業概要説明書
 - ③事業計画書
 - ④確約書
- また、決算書、定款等を添付資料としてご提出ください。

審査 提出いただいた書類及び代表者のヒアリングをもとに
審査・決定いたします。

賃貸借契約 本施設は定期賃貸借契約を締結の上、入居・利用いただきます。

- ①敷金 月額賃料（税抜）の3ヶ月分
- ②契約期間 当初契約期間は最長5年以内です。
（以降は再審査）

その他 入居後は、施設に常駐するインキュベーション・
マネージャーが事業計画書に基づき、その実現を
図るべく事業の支援活動を行います。

申込/詳細 <http://www.smrj.go.jp/incubation/kobo/087608.html>

問合せ 独立行政法人中小企業基盤整備機構 関東本部
浜松イノベーションキューブ (HI-Cube) IM室
〒432-8003 静岡県浜松市中区和地山3-1-7
TEL 053 (478) 0141 FAX 053 (473) 7221
E-Mail hi-cube-info[at]smrj.go.jp

《 みんなのコラム -77- 》

記：工学研究科 電気電子工学専攻 教授 野口敏彦（季彦）

私の専門分野はパワーエレクトロニクスである。パワーエレクトロニクスとは電力変換技術に関する領域を指し、その典型的な応用例は電源装置、モータドライブ、再生可能エネルギー利用システムである。

この分野で研究開発活動を始めて既に30年以上経過したが、その間、株式会社東芝に約10年、長岡技術科学大学に15年ほど在籍した後、静岡大学で5年間を過ごした。

もともと、パワーエレクトロニクスは産業に直結した学問領域であるため、民間企業との接点は多く、学会、各種技術セミナー・展示会、学術雑誌などを通じて産学連携の機会を模索する動きが活発である。事実、電気学会が主催するパワーエレクトロニクス関連の国内学会には非常に多くの企業人が聴講、発表するばかりでなく、電気学会論文誌に掲載される学術論文の多くも企業からのものである。また、大学側からすると、ほとんどすべての教え子（研究室の卒業生、修了生）がパワーエレクトロニクスに関係した業界へ就職するため、そのチャンネルを通じて産学連携に繋がるケースも多い。即ち、大学の研究室で行っている研究内容が学生の就職活動に有利にはたらくだけでなく、就職後の業務内容にも直結するという点で、パワーエレクトロニクスは特異な存在の学問領域であると言えよう。

今や、パワーエレクトロニクスは、旧来の電力系統機器、産業機器、民生機器だけにとどまらず、ハイブリッド自動車や電気自動車に代表される交通運輸分野にも広がっており、それに伴って産学連携の場も拡大の一途を辿っている。

私の場合、産学連携活動の基礎を築いたのは長岡技術科学大学在籍中であった。幸運にも同大学は創設当初から産学連携に重点を置いた大学であり、共同研究、受託研究、技術開発センタープロジェクト、JST関連事業、NEDO関連プロジェクト、奨学寄付金、実務訓練など多様な形態で産学連携を推進してきた。

静岡大学に転籍してからは、やはり地の利もあってか自動車業界からの共同研究や技術指導・相談に関する申し入れが多い。かつてはそのほとんどが産業機器と民生機器の業界からだけであったのに対し、西暦2000年を境に自動車業界との連携活動が大半を占めるようになった。

具体的には、ハイブリッド自動車、電気自動車、電動バイクなどの駆動に不可欠なモータやインバータに関する研究、インバータを構成する半導体素子の実装に関する研究はもとより、各種車載用補機モータおよびその制御システムに関する研究、バッテリーマネジメントおよび車載用電源装置に関する研究などが産学連携の事例である。

産学連携と言うと、共同研究に代表されるように研究関連の活動ばかりが注目される。そのような中で静岡大学に転籍してからは、特定の企業との包括提携に基づく産学連携活動にも参加するようになった。

例えば、企業内で行われる社員技術教育の講師は、私にとって新たな産学連携の態様をもたらすものであり、パワーエレクトロニクスの裾野を広げる絶好の機会である。今後は研究ばかりでなくパワーエレクトロニクスの啓蒙活動にも力を入れ、浜松を中心とする遠州地域の産業発展に微力ながら貢献したいと思う。

<< 編集後記 >>

静岡大学が2002年から中東欧の協定校と開催している国際研究会議「インターアカデミア Inter-Academia 2014」が、本年は9月10～12日にラトビアのリガで開催されました。当初4大学で始まったInter-Academiaですが、現在では本学および12の協定校を数える会議に成長しています。

今回、本学からの参加は、教職員、学生を含め総勢35名にのぼり、さらに企業関係者、ヨーロッパ各大学からの参加を得て、総参加者数約160名で研究発表や意見交換を行いました。発表内容は、基礎的な研究成果に加え、産学連携を睨んだ展開も進みつつあります。

さらに、インターアカデミアの大きな成果の一つとして、若手研究者

の育成が挙げられます。本学ではこれまでにインターアカデミアの交流から30名を超す留学生の受け入れと11名の博士課程のダブル・ディグリー・プログラム（DDP）の学生を受け入れています。

今回のインターアカデミアは、諸事情により急遽リガでの開催となりましたが、リガ工科大学関係者の献身的なご尽力により、会議が成功裡に開催されました。来年のインターアカデミアは、本学が幹事校となって浜松で開催される予定です。

ご興味のある皆様には、是非、ご参加いただけたらと思います。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：原典子

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2014

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved